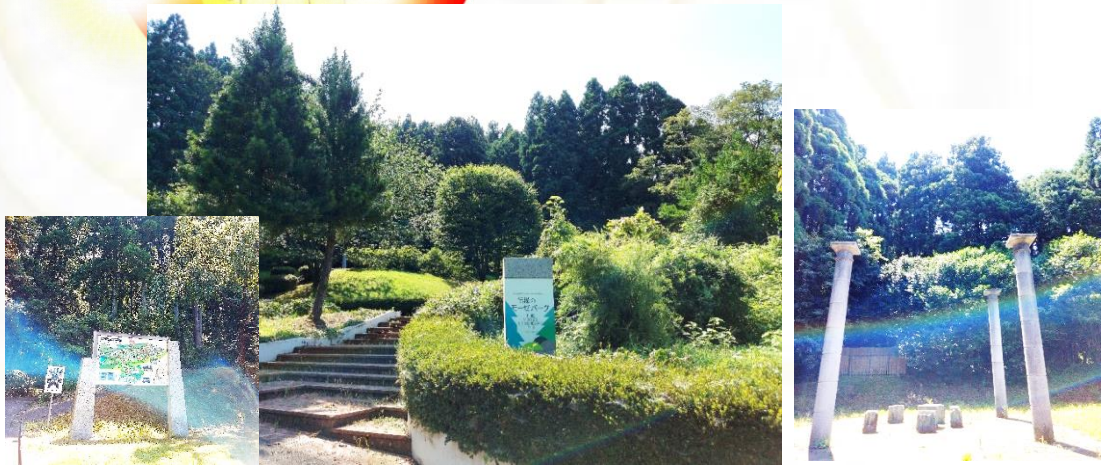


氣多大社 & モーゼパーク (2021.7 in 能登)



コロナ渦における前代未聞の“2020東京オリンピック”が間近となった2021年7月
二度にわたって、能登一の宮である“氣多大社”へと出かけました
一度目は、氣多大社の前に、その本宮とされる“能登生国玉比古神社”へと向かい
二度目は、自宅へ帰る途中の道筋にある、伝説の森公園“モーゼパーク”に立ち寄りました！^^

根源アセンションプロジェクト HAKU (hamu) SUN より、前回発進したコンテンツ
『旧地球史最後のKTセミナー』において、根源のKT(皇御親)に対し、これまでの感謝と決意を込めて
皇御孫(根源の子供達)による、**新地球(&新宇宙)創成！維新の志士宣言**をしました！
自分に何が出来るのか？ではなく、「こうする！」という、明確な意思表示とその実践が、今最も重要と感じます
何故ならば、地上セルフが考え得る(想像出来る)限りの、最高の願いこそが、
自己の本源である、宇宙根源神(皇御親)に最も近い、その分御魂 = “御神体”の願いであり、
それをやる時が今！と思うからです
地上に生きる人のレベルでは、妄想ともいえるものでもありますが、中今のこの地球(&宇宙)ならば可能です！
それが“KTセミナー”の意味するものであり、
宇宙創造主(根源神)が、私達と共に人としてこの地上に存在している?!という、奇跡の時空だからです
私は10年前(2011年1月)にNMCAAに参加するまでは、「アセンション」の「ア」の字も知らなかったので

多くの方が、そんな事あり得ないと思う気持ち、すごくよくわかります

また、これらのことは神界の秘密であり、天界の一部のマスター方しか知らない事でもあるので

スピリチュアルに深い関心がある方も、初めて耳にする内容かもしれません

偉大なる、全てのスピリチュアル・ハイラーキーや大天使方も、神(界)から生まれ、神の命によって動きます

日本は、NMC(新マクロ宇宙)の核心、“根源天照神界”につながる神の国であり

この旧から新への大転換の今、世界に先駆けて人類を導き、サポートしていく、とても重要な使命を持ちます

私達はその為に何度も転生を繰り返し、その準備をしてきたと言われます

地上セルフは未だ、宇宙史におけるそれらの記憶が、思い出せないままですが、それが真実とわかる

凝縮された学びの、怒涛の十年であったような気がします

記憶が全く蘇らない理由の一つとして思う事は、この度のアセンションが、

完全なるフルコンシャス(普通の人意識状態)でなければ、決して歩めない、宇宙史上初の、驚くべき、

肉体を伴ったまま、“マザーアース”(母なる惑星“地球”)と共にアセンションする！！という

地上から根源への、究極のアセンションである為で、過去に何度か経験したアセンションにおいて、半トランスに陥り

自己の本意に反した選択をしてしまった…という、苦い経験があるからなのかもしれません

(どうしても思い出したくない、悲惨な出来事の数々も…)

私のように、何の知識もスキルもない人間が、それでも、抑えることのできない

自己の核心(魂)から湧き上がる、叫びのようなもの = “真実” なのではないでしょうか？

今自身にとって必要な事は必ず示され、導かれる！という、自己の全て=ハイアーセルフ連合への

絶対の信頼をもって、その願いの究極のポータルとして、ひたすら前へ前へと進んでいく、そのみです！^^

今回、氣多大社を訪れる直接の原因となったのは、コンテンツの後半でとりあげた

地元加賀松任“若宮八幡宮”境内にあった、下記内容です



「森林研究家の説によれば、この若宮の森は近在においては、能登の氣多大社の“入らずの森”、

吉崎御坊の“鹿島の森”に次ぐ、縄文時代の面影を残す貴重な森」とあり

“縄文の面影”という言葉に惹かれ、是非もう一度(2012年が最初です)行ってみたい、と思ったからです^^

高速道路が苦手な私は、日本海沿いの道を縦断する“のと里山海道”を選んだのですが、

こちらも速っ！ビュンビュン追い抜かれます

普段絶対出さないスピードで走るの、緊張すると同時に、海に吸い込まれてしまいそう…

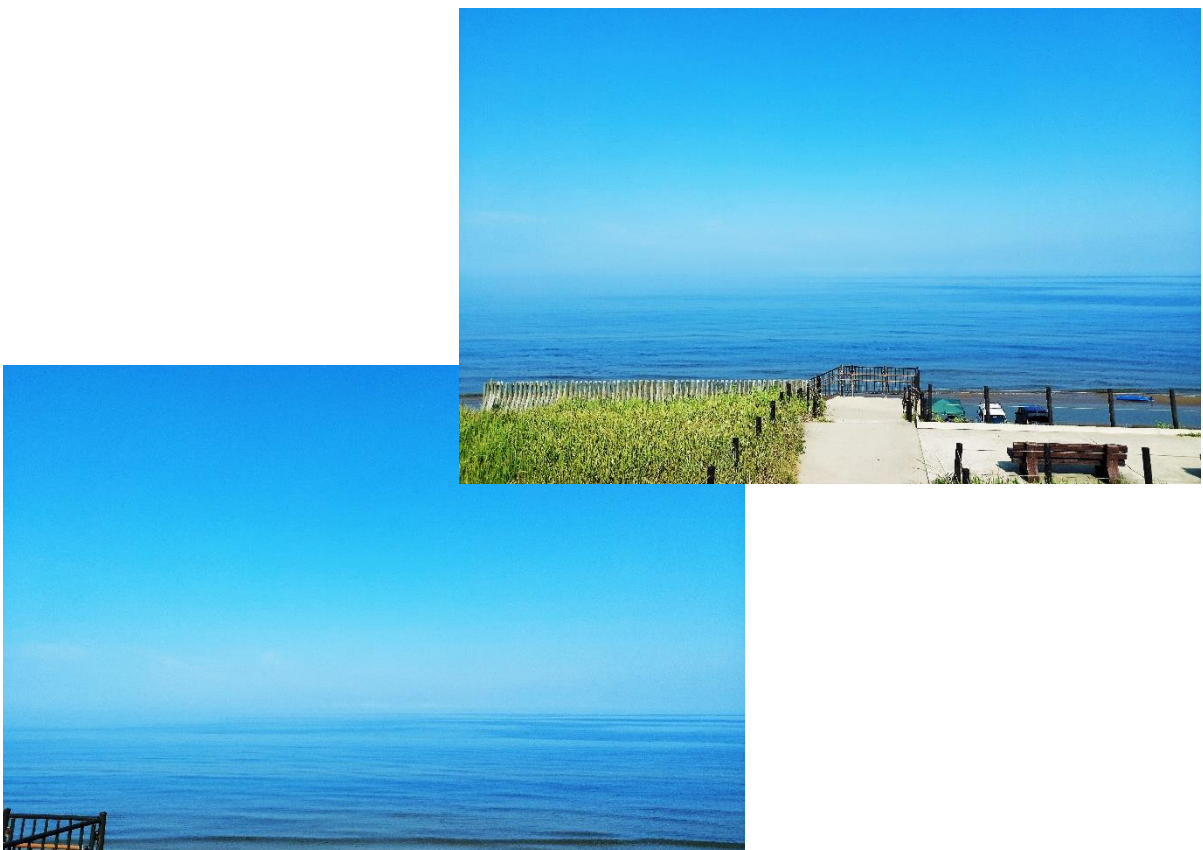
という想定外の誘惑も加わり、少々疲れました

海と空の境目などなかったんだ。。。私もこの大自然の中に溶け込んでしまう～～という

ボワ～ツとした思いと、恐々ハンドルを握っている小さな意識が交差して、冷や冷やする感じでした

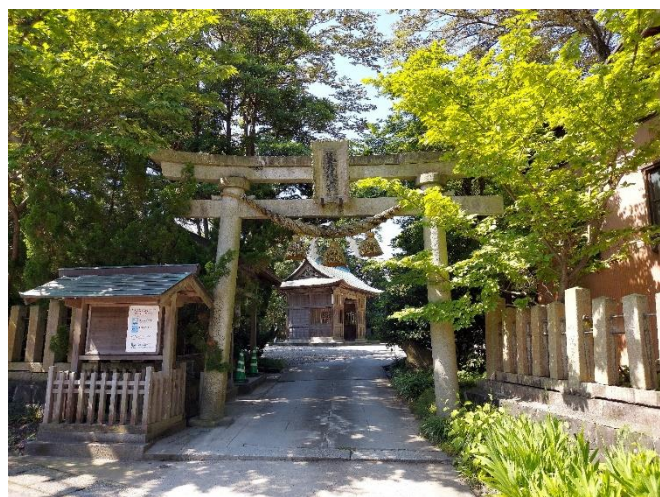
けれど、高速でノンストップ！（信号なし）なので、思ったより早く到着し、ラッキー！^^

青と白の世界を感じる、清々しい序章となりました



のと里山海道をおり、今度は半島の反対側へ向かって横断するかたちで、

約30分程の所に、氣多本宮がありました^^



あたりをグルグル回った挙句、ようやくたどり着いたのは、正門ではなかった事に気づき
一旦正門から出て、再度入り直しました^^



のどいくくにたまひこ
能登生国玉比古神社(氣多本宮)

能登国総鎮守で、上代には能登の大神と仰がれていた。大己貴命(大国主命)を祭神とする。

上古孝元天皇の治世に創祀されたと伝える。

崇神天皇の御代に、羽咋の竹津浦に祭神を分霊し、氣多神社が創祀、それから氣多本宮と称するようになった。

(ウィキペディアより)



境内はそれほど広くはありませんが

頭上の、あちこちに見られる装飾が見事で、壮麗、繊細な雰囲気とともに
どっしりとした風格も感じる、趣深い社殿です



正門から参道を、こちらへと向かって来る間に見えてきた？のが、出雲大社にある(とされる)
まるで社殿が変身した？かと思う、巨大な“大国主命”の像？！です
残念ながら出雲大社に行った事がなく、ネットでチラリと目にしただけですが、まさにこんな感じ！



ムスビの御神像(大国主命)

出雲大社

ウィキペディアより

正面にいる私の事を、大きく手を広げて包み込んでくれるような…、ずっと待っていてくれた？かのような…
なんとも言えない、大きな、深い愛のエネルギーが全身を包み込み、ウルウルしました
神話の中でしか知らなかった大国主命の偉大さ、素晴らしさを、初めて実感できたような気がします^^
あらためてこの像について調べてみると、像の前には金色の玉？が置かれていて
日本神話に出てくる一場面を、再現したものようです
大国主命は、素戔鳴命の子(子孫)で、日本神話に登場する、国津神の主宰神
出雲大社・大神神社の御祭神でもあり、少彦名命と共に、農(商・漁)業や医療等の優れた技術を導入し
国造りを完成させた、日本国創成の祖と言われます
最大のパートナーであった少彦名命が、常世？へと帰ってしまい、この先どうしたものか？と
一人呆然としていると、海の彼方から光(玉、神)が現れ、
「私がいなければ、あなたはこれほどの事を成し遂げる事は出来なかった」と言います
「私」とは誰ですか？」と大国主が問うと、それは「あなた自身の“幸魂”と“奇魂”です」との答えがあり
その光の玉 = 自身の幸魂と奇魂を抱こうとしている場面で、自己の魂の統合
“ムスビ(結び)の御神像”と呼ばれるそうです
出雲大社が『縁結びの神』とされる、理由でもあるようです

この幸魂と奇魂が、三輪山に祀られた大国主の“和魂”=“大物主”の事であるとされます

神々には、殊に大国主命には、沢山の別の名前があるとされますが、

それはこの魂の組み合わせと、その強弱の度合いから生まれる、ハーモニーのようなものなのかもしれません^^

人は4つの魂と、それらをコントロールする一霊(直霊)から成るとする“一霊四魂”という考え方があります

荒魂には「勇」、和魂には「親」、幸魂には「愛」、奇魂には「智」という、それぞれの特徴・役割があり
大きくは、荒魂と和魂の二つに分けることが出来、和魂の中に幸魂と奇魂が含まれるという見方があるようです

私がこの能登生国玉比古神社で感じた事、そして調べてわかった事から思うのは

国造りという大仕事を成功させたのは、勇猛果敢に突き進むパワー=大国主の“荒魂の力”によるものと言えますが
それを支えたのは、和魂であり、幸魂、奇魂であったという、大国主命の気付き=統合の瞬間を見たのであり

これはそのまま、日本という国土の荒魂と和魂、イコール、陰と陽、男性性と女性性の統合でもあり

そして、私自身の統合でもあるのではないのでしょうか？

本殿へと向かう私(の和魂)は、大国主命の和魂(幸魂、奇魂)であり

手を広げてそれを迎え入れようとする、大国主命の荒魂は、私自身の荒魂でもあるのでは？という事です

“結び”という、む=6次元で、これまでの地球における、緩やかな統合という感じですが

中今は、有無を言わせぬ(笑)白山菊理姫の“括り”の時=9次元！

十全(10次元)の太陽、天照皇太神へと向かう、完全なる統合のイメージです

(この場合の次元は、私のイメージ、ものさしです^^)

次元の上昇=意識の拡大？によって、更に浮かんできたのが

地球、太陽系を超えた、宇宙規模(NMC)の女性性と男性性の統合についてです

自己のNMCにおける女性性としての、四魂は

荒魂…菊理姫、和魂…天照皇太神、幸魂…木花咲耶姫、奇魂…瀬織津姫 であるような気がします

もう一方の、男性性としての四魂は

荒魂…素戔嗚尊、和魂…瓊瓊杵尊、幸魂…神武、奇魂…国常立太神です

このような事は、未だかつて一度も考えてみたことがなく、浮かぶ=その時期？という事かもしれません^^

これが、氣多本宮における学びのテーマだったかも？ですが

私がここに来た意味、最大の喜びは、これまで見えていなかった、大きな愛の“大国主命”に出会えた事！

幸せ一杯で、氣多大社へと向かいました^^

到着して一番に向かったのが、境内の左手(トイレ、笑)で、その向こう側に寺院？がありました

気になったのですが、残念ながらスルーして、神社の境内へと向かいました

人の姿は、あまりありません

女性の神職さんの白い袴姿が、陽の光に美しく輝き、とっても眩しいです^^

地上セルフは、神官(女ですが)になりたかった(笑)(GHQによって、現在日本には神官がいなくて、知ってました?)

国指定重要文化財とされる、立派な“神門”



こちらが拝殿です(国指定重要文化財)

氣多大社さんホームページには、建築様式について細かく記されていますが、私にはさっぱり(笑)

けれど、今回が二度めの訪問となりますが、なんて美しいだろう。。。と

質素でありながら、見れば見る程魅き込まれる、奥深い“日本の伝統美”のようなものを感じます

能登半島の付け根、羽咋市北方に日本海に面して鎮座する。

祭神の大己貴命は出雲から舟で能登に入り、国土を開拓したのち守護神として、この地に鎮まったとされる。

古くから北陸の大社として知られ、中世・近世には歴代の領主からも手厚い保護を受けた。

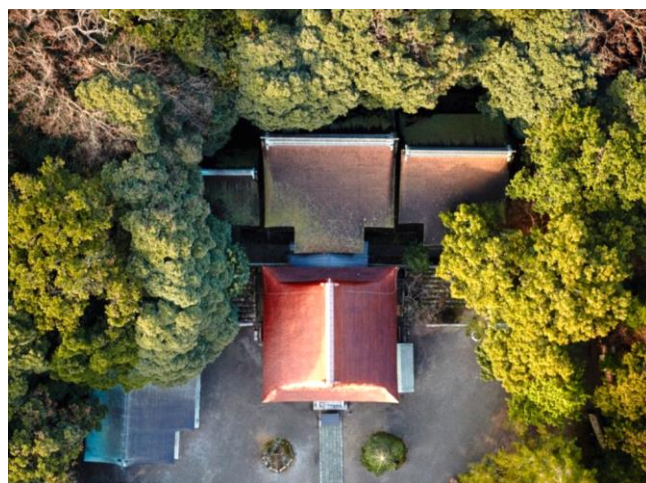
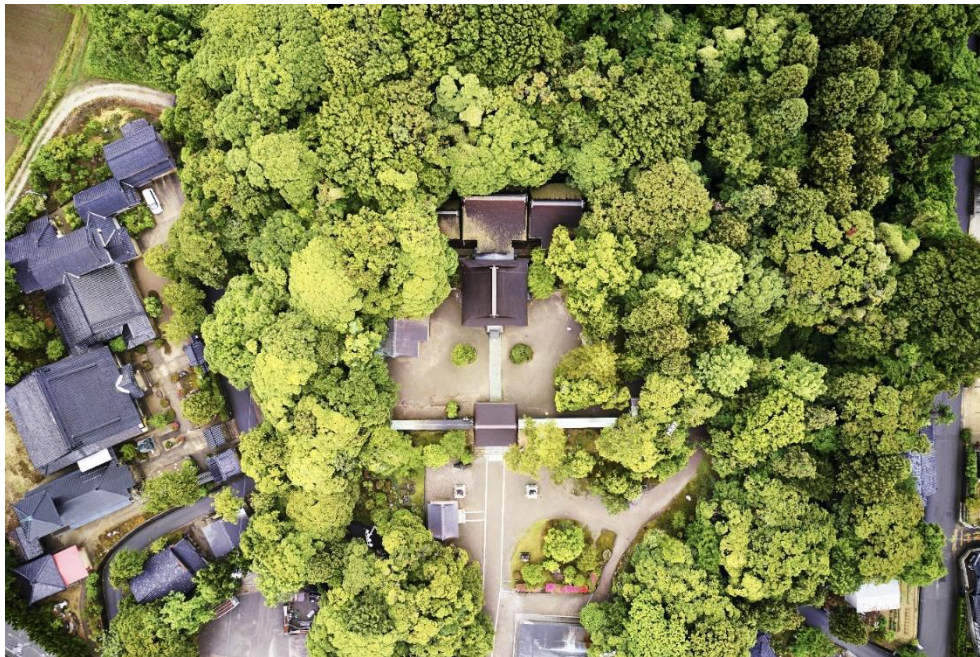
現在は本殿など5棟の社殿が国の重要文化財に指定されているほか、
国の天然記念物の社叢「入らずの森」で知られる。

(ウィキペディアより)

御祭神は、能登生国玉比古神社と同じ大己貴命(大国主命)とありますが

自身は、“素戔鳴尊”？という感じがします

拝殿(本殿)の奥には、“入らずの森”があり、その奥宮に祀られているのが
“素戔鳴尊”、“奇稲田姫命”とされるので、そちらのエネルギーを感じている？という事でしょうか…



上記は、氣多大社さんホームページからお借りした、境内の航空写真です

森も含めた全体の様子があって、素晴らしいアイデアと思います^^

最近小型ドローンなる、小回りのきく空撮媒体が誕生し、今まで見たことがなかった角度からの

なんとも不思議で、美しい景色がTV放映されていて、とても感動しました！

意識が肉体から解放された幽体離脱や、“魂”の世界とは、こんな感じなのでしょうか？

着実に3次元から4次元、更に5次元へと向かって進化している地球(地上)に、ワクワクしてきますね！^^

拝殿と奥宮（入らずの森）の間、本殿に寄り添う形で、三位一体の雛形のように建っているのが

若宮神社（向かって左側）…御祭神は、大国主命の子とされる“事代主命”

白山神社（向かって右側）…御祭神は、“菊理姫命”です^^

子供とされる事代主命はわかりますが、なぜ菊理姫なのか？一瞬考えてしまったのですが

氣多大社は、“能登一の宮”であり、

菊理姫を御祭神とする白山神社 = 白山比咩神社は、“加賀一の宮”なので、ペアでもあり

ここは、石川の二つの“一の宮”が並んで建つ、とんでもない場所なのかも？！と思えてきました！^^



若宮神社（本殿左）



白山神社（本殿右）

もしかしたら、氣多大神（スサノオ神）は、今この時を待っていた？

“入らずの森”の封印を解く鍵は、**菊理姫？！**。。。

白山神社の前を右手の方へ進んでいくと、入らずの森の入り口？のようにも見える鳥居があります

鳥居しかないのですが、“楊田神社”とあり、その理由等についての説明が見当たらないので、不明です？



楊田神社という名前は初めてで、その御祭神とされる“荒御魂神”について、全く想像出来ませんでした

社殿を必要としない = 目に見える世界から見えない世界への、異次元の扉のような感じがします

例祭が3月3日とされている事から、“姫神”であることが連想され、

「楊田神社」でネット検索してみると、氣多大社と同じ羽咋市にある“楊田神社”がヒット！

その御祭神は、なんと“菊理姫命 天照皇大神 天手力男命 大己貴命”となっていました？！

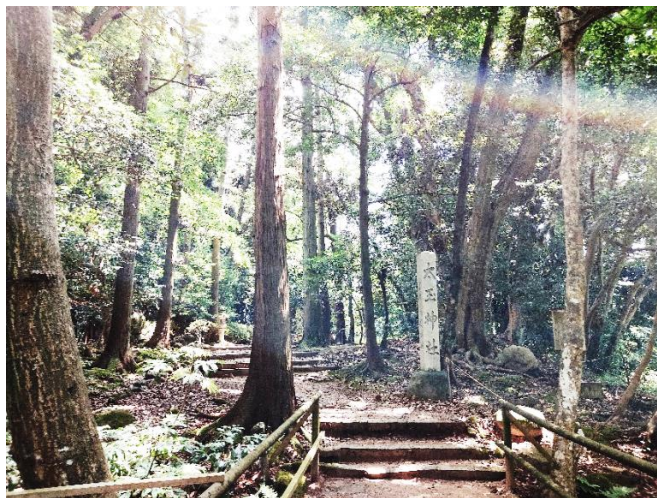
やっぱり、菊理姫？（笑）

興味を覚えたのが、ご祭神の一柱“天手力男命”あめのたちからおのみことで、天の岩戸開きの際、脇に隠れていて

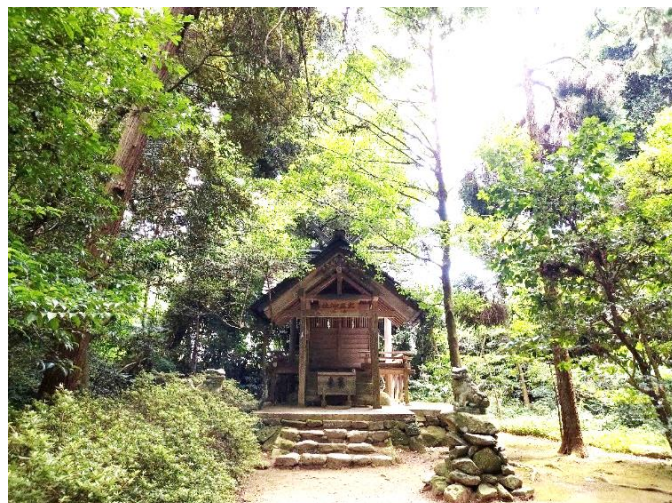
岩戸が微かに開いた瞬間、手力(腕力)で押し開き、天照大神を表に引っ張り出し
世界に光を取り戻したとされる男神で、(伊勢)神宮内宮に相殿神として祀られているとの事です
“入らずの森”と、“天の岩戸”が重なって感じられてきました！^^



更に右手へと進み、小さな川を渡った奥にあるのが“太玉神社” 御祭神は“天太玉神”です



一帯が清々しい気に満ちていて、透き通った美しい光の玉がイメージされます^^



天太玉神は、古代朝廷における祭祀を担った、忌部氏の祖先と言われ

天の岩戸開きの際に、天児屋命と共に大活躍した神でもあります

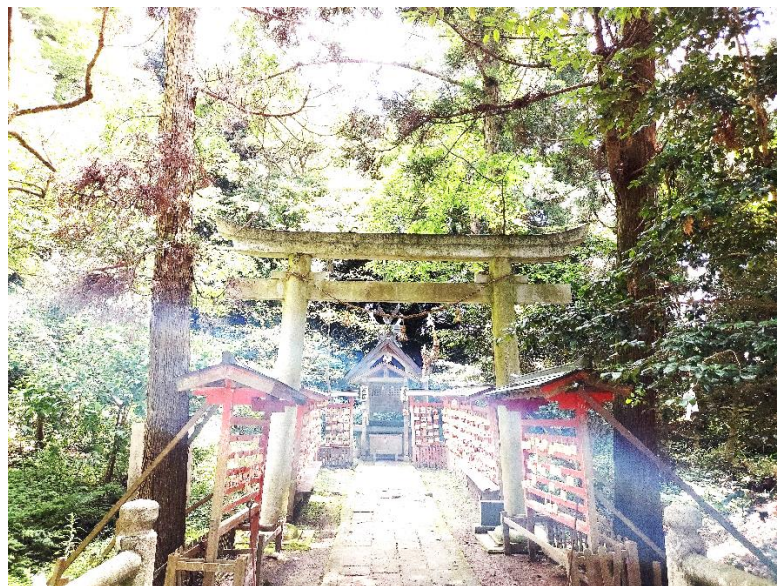
私の知っている忌部氏、賀茂氏、秦氏等は、皇統を陰から支えてきたカラスさん(八咫鳥)であり

日本の中心神である“天照大御神”を守る、素戔鳴尊の使いです^^

こちらも、不思議の国のカラスさんの、パフォーマンス？



太玉神社を中心に、世界が回っているように見えます(水晶玉の中?)^^



お馴染みの“菅原神社”です^^

川の流れに沿うように、白い光の帯のようなものが見え、優雅で美しい白龍さんを感じます



との事で、遠慮なく渡らせていただきました！(わ~い！で、何の試験?^^)

お待たせしました！いよいよ「モーゼの墓」があるとされる、“モーゼパーク”です！(^^)!

(誰も待っていない?)



モーゼの墓と聞き、ワクワクで向かった私でしたが、完全にブームに乗り遅れていた事

=“現実”を理解し、汗だく、クタクタになって帰ってきたのでした(笑)

カーナビでは検索出来なかったの、携帯ナビに従って進むと、田舎の細道を抜けた先にありました
人影が全くなく、本当にここかしら？と一瞬不安になりましたが、間違いなし！と思う出来事が…

現地到着寸前、車のすぐ前に、

見事な羽を広げた、王者の風格漂う鷲さん？(鷹さん?)が、突然舞い降りてきました?!

その次の瞬間、今度は、黒々とした羽の、光り輝くばかりに美しいカラスさんが

フロントガラスギリギリを横切り、すぐ傍のフェンスに降り立ちました?!

出迎えてくれた。。。としか思えませんでした

カラスさんは、あのカラスさん(笑)なので、何かある!そう感じました

ちなみに鷲さんは、ユダヤ教やキリスト教では“神の使者”とされるようです^^

絵ハガキで見ると鮮やかな景色、まるでテープに録音されているかのような、美しい鳥のさえずりが

クリスタルの空間に響き渡り、光と緑溢れる地上の“パラダイス”を感じました^^

(何かの舞台?のような感じも…)

肝心の地図を見るのもそこそこに、山の奥へと入っていき、とど、とど…、



立ちはだかるのは熊?! 「注意! 熊出没!!」と書かれた看板に、ドキッ!

自身の身近で二件の熊遭遇事件があり、ともに大ケガをされているので、他人事とは思えません

入らずの森の背後でも目にした、熊注意報?!。。。もしかしたら、

“熊” → “熊の(野)大神” = “スサノオ神” では! ?と浮かんだのですが、やっぱり怖い(^;

大丈夫! と言い聞かせながら、わざと大きな足音をたてて

坂道を、息をきらせながら登るのですが、それらしき場所にたどりつきません?

そんなに遠いはずがないと思い、途中で引き返したのですが、どこで道を間違えたのか、元の場所に戻れません

迷子になるのは毎度の事なので慣れっこですが、山の中はちとヤバいかも?! クマもいるし…

計画性のない私はいつも一人ですが、パートナーがいてくれたら…と思う、なんとも心細い時間でした

自身の位置がわからないので、携帯ナビで確認しようと思うのですが、「ネットがつながっていません」と出ます

丘のような所が見えて行こうとしても、柵が張られていて、それ以上近づけなかったり

さっきまで見えていた民家が、いつの間にか視界から消えたりで、ここは迷路か? 自分はアホか! と思いながら
なんとか電波がつながる場所へと出て、何故ここに…? (笑)、大回りして、ようやく元の場所へと帰る事が出来ました

もう一度そこにあった地図をよく見てみると、すぐ傍にあるように見えるのですが、

それらしき標識が見当たりませんか? そこでようやく気付きました

「モーゼの墓」と記された標識があるものと、勝手に思い込んでいたのです(三ツ子塚古墳としか書かれていない)

また、地図に記されている道の一部が封鎖されていて? 様子が変わってしまっていたことも…

モーゼパークもオープン当初(1993年頃?)は、たくさんの人で賑わっていたのかもしれませんが

“今は昔”、、、という感じです

では、私は、今ここに何をしにきたのか。。。?

出かける時はいつもそうなのですが、「あれっ、それ知ってる? なんとなく行ってみたい…」からはじまり

大まかなこと、だいたいの経路しか調べないで出かけてしまいます

なので、こういう事になってしまうのですが、調べすぎると、変な先入観が生まれ(実は面倒くさい? 笑)

中今でなくなる気がします^^

モーゼに関しては、●旧約聖書における重要人物

●エジプトで迫害されていたユダヤ人を、ヤハヴェの命によって救い出し、約束の地「カナン」へと導いた

●神との契約「十戒」が書かれた石板(アーク、契約の箱、所在は不明)、海割れのシーンで有名

等が一般的と思われますが、そのモーゼが、ここ能登宝達山に眠る——、がオリジナルであり、謎です

私は、人類発祥の地は日本であり、ユダヤと日本は、陰と陽、イザナミとイザナギの関係にあると言われる事が

真実と感ずるので、モーゼのお墓がここにあっても不思議でない気がします

改めてモーゼについて調べてみると、モーゼとは、“預言者” = 神の命を伝え、代行する者であり

私が大切に思う事 = 根源(神)の愛と光のポータル、究極のクリスタルである事

そのものでは? と感じました^^

アークも、数々の奇跡のパワーも、ただ神の子である人を、幸せ(の地)へと導くために、神から与えられた道具(手段)ただだけで、人々を救いたいという、究極の愛のポータルでしかなかった！

そして今、私がモーゼのポータルとして思うことは、
大きな二極(分裂)の雛形としてある、“日本”と“ユダヤ”の統合が、全人類の統合の為に、
とても重要な意味をもつのでは？という事です
世界はあまりに複雑になりすぎていて、とてもシンプルな事、“真のユダヤ”、“真の日本”とは？が見えなくなってしまうのではないのでしょうか
“真の”とは、“本来の神の子”という意味であり、あらゆる全てがたった一つのもの
=“神”であり、“愛”であることをしっていて

互いを尊重し、助け合い、感謝と喜びの中に生きていく、“本当の人の姿”なのだと思います

ネットでみるモーゼ(像)には何故か角が生えていて、そこから連想されるのは、牛頭天王=スサノオです

モーゼは、スサノオによって導かれていたのではないのでしょうか？

約束の地“カナン”とは、乳と蜜(母性)に溢れた、故郷“日本”の事であり、モーゼはその地へたどりついた！

そして今、ユダヤの民に向かって「帰っておいで〜」と呼び掛けている…、そんな気がします^^

氣多大社の奥の宮=“スサノオ”であり、モーゼパークとつながりました！

もしかしたら、あの鷲さんはユダヤの、カラスさんは日本の象徴として、ここに舞い降り、握手したのかも？^^

ところで、今回の目的地であった「モーゼの墓」？についてですが

私が森の中をウロウロしていたとき、浮かんできたのは、“在りてあるもの”——

言葉だけしか知らなかったのので、改めて、どこの、どんな場面に出てくる言葉なのか？調べてみると

旧約聖書の『出エジプト記3章14節』の中で、神がモーゼ？！に向かって言ったものである事がわかりました

ユダヤの民の救済は、神の意志であり、モーゼはその預言者(代行者)です

なので、モーゼが神に対して

「人々はあなたが何と言う神なのか？私に聞くでしょう。その時どう答えればいいですか？」

と質問した、その答えであることがわかりました

モーゼ、そしてユダヤの民の疑問は、そのまま私の疑問でもあるような気がします

ユダヤ教、キリスト教、イスラム教は、アブラハムを始祖(預言者)とする、“一神教”と言われます

その唯一絶対の一なる神が、“在りてあるもの”という事になるのでしょうか？

「在りてある」という言霊から感じること。。

自身の内側、自己の中心から、力強く響いてくるものであるような気がします

私達人が、“自分は在る”と思うとき、そこに在ることがわかる、在るもののすべて——

それは、「ない」けれど“ある”という「無」から“有”を生む∞の可能性、“ゼロポイント”のようなものであり

すべての創造の源である“根源(神)”と言えるのではないのでしょうか

私達は神そのものであり、神の現れの一部であり、表現者(神)の一人一人なのだと思います

モーゼの墓(神)がどこにあるのか？大した問題でない気がしてきました

今ここに生きて、墓はどこだ？(神はどこにいるのか？)と探している、私そのものです^^

ミステリーヤードと呼ばれる場所に、『古墳と聖者モーゼの伝説』と記された、石板？があり

この奥に、モーゼの墓とされる2号墳(三ツ子塚には10の古墳があるとされます)が、あるらしい事がわかりました



石板には、真っ白な愛(神)の光に包まれたモーゼが見え、感激です！^^

「偉大なる聖者“モーゼ”、ここ約束の地に、やすらかに眠る——」

私の日記には、そう記したいと思います！^^



五つの輪を象徴とする“オリンピック”は、



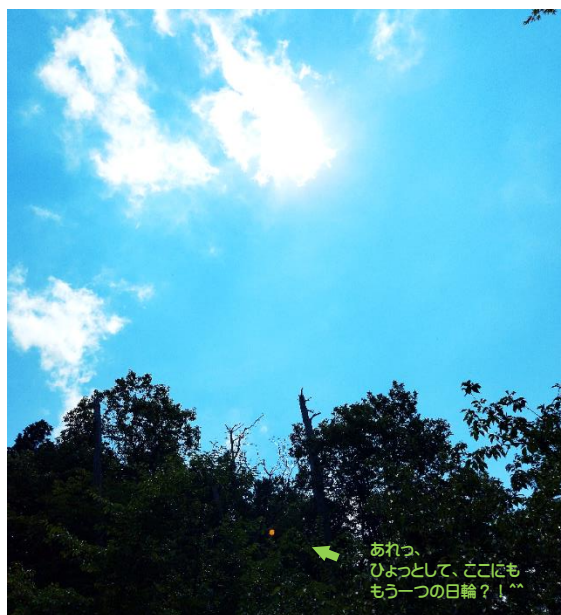
人類の原型とされる5つの根源人種“五色人”(青人、赤人、黄人、白人、黒人)の祭典とされます

オリンピックに対する様々な憶測、批判が飛び交っているようにみえますが、

誰も侵すことの出来ない、神聖なる計画(愛)のもとに、すべてが動いている、私はそう感じています

日の本(黄金人)から、根源の愛と光が、大きく広がっていきますように。。

真のユダヤ=“モーゼ”と共に、世界中の、平和と幸福と繁栄をお祈りしたいと思います



もう一度氣呂大社に出かけよう！ と思ったのは、心残りがあったからです
一番最初に目にとまった、“正覚院”の事です



鶴亀蓬萊山正覚院は、氣多大社に隣接して所在する真言宗の寺院で、本尊は大日如来です。

養老年間、泰澄大師が伊勢内外宮を参拝しての帰り、

夢想の歌「恋しくば 尋ねても見よ 能く登る 一つの宮の 奥の社へ」とのお告げを受けて、

氣多神宮寺を創建したと言い伝えられており、正覚院はその内の一寺です。

明治初頭の神仏分離により、他の氣多神宮寺である、長福院・地藏院・薬師院が廃絶し、

正覚院のみが存続・独立して現在に至っています。

こうした経緯から、同寺には気多大社ゆかりの寺宝が引き継がれています。

(羽咋市ホームページより)

今でも神仏混淆当時の面影を残し、もと本殿奉安「八咫の神鏡」を初め

「開かずの宮」といわれる護摩堂本尊不動明王、重要文化財の阿弥陀如来など、多くの寺宝を秘蔵している。

(正覚院由緒書より)



本堂



護摩堂

白山開山の祖“泰澄大師”によって創建された寺院であり

「鶴亀」、「伊勢内外宮」、「大日如来と阿弥陀如来」等、所々に“陰陽二極”のキーワードを感じます

“気多大社”は、大国主命や素戔鳴尊等、男性性が中心であるように見えますが

万葉集には“気太神宮”(と呼ばれていた)とされ、奥には、太陽(天照)神を中心とする女性性が感じられ

神仏分離令によって独立した正覚院には、そのままだが継承されているのではないのでしょうか

「恋しくば 尋ねても見よ——」の『恋しくば』に、泰澄大師の思慕、

究極の母性(根源太陽母神)に対する憧れと、深い願いが込められているような気がします



弘法大師“空海”？

“泰澄大師”発見?!とおもいきや、弘法大師空海であったようです。。

真言宗のお寺なので、さもありなんですが、私は正覚院を開いた泰澄大師だとすっかり思い込んで

あまりお見かけすることのないそのお姿に、感動のあまり、顔を下からまじまじと覗き込み(笑)

こちらに呼んでいただいた事に対する感謝と喜びの、ご挨拶をしたのでした

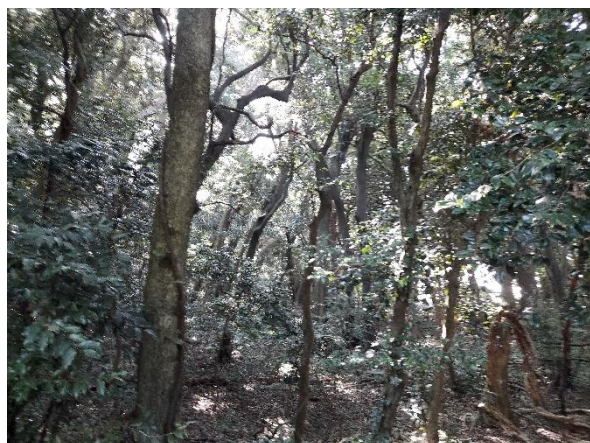
泰澄大師は、新時代の“菊理姫”の、生みの親？

私をNMCの核心である“根源天照皇太神”へと導いてくれた、偉大な師(マスター)でもあります

ブルーの光に輝くお姿から、シリウス、秦、スピリチュアル・ハイラーキー等が連想されます(空海さんも?)

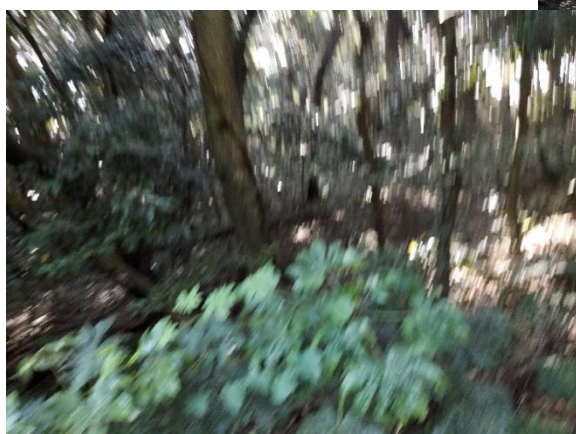
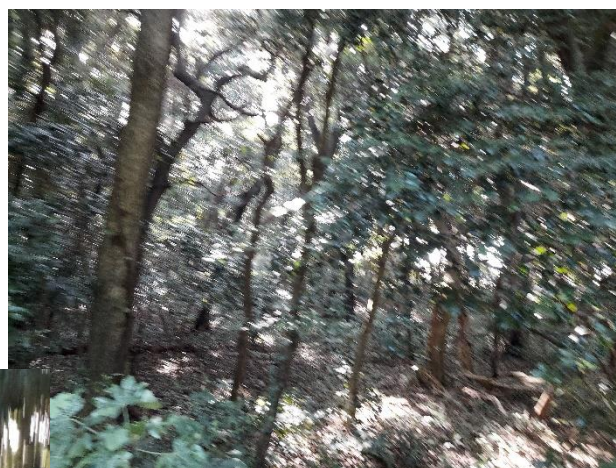
そして、上記歌は、「能登一の宮の奥の社へ！」という、暗号なのでは？ど^^

正覚院の前の通りは、入らずの森の裏側へと続く道でもありました



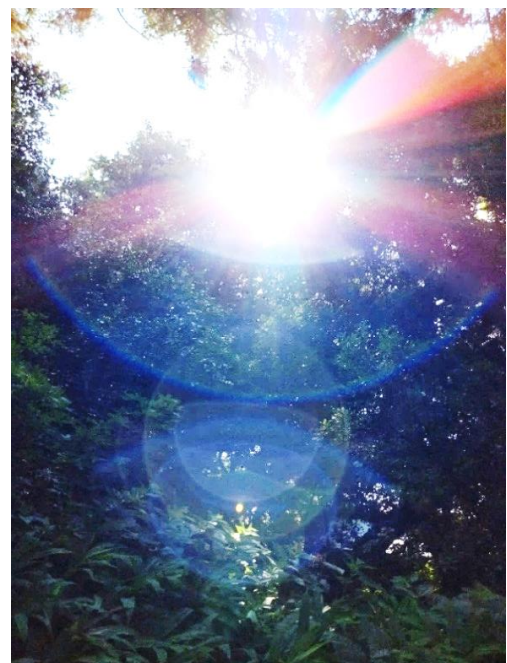
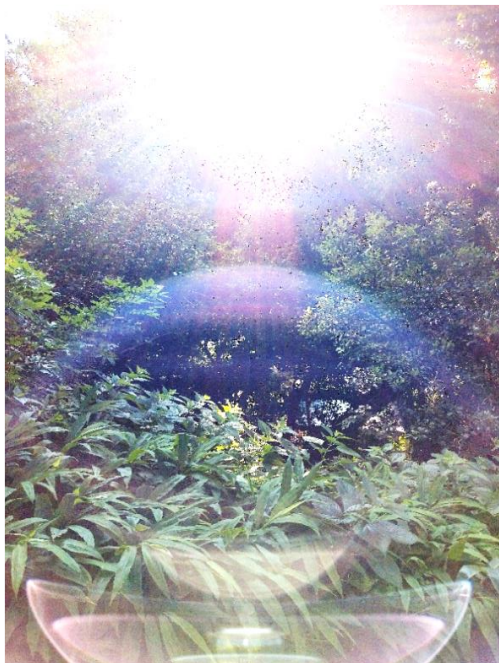
入らずの森は、とても神秘的、幻想的です

人の目には、静止して見える自然界も
携帯(カメラ)の目=進化した“視覚”には
このように映っている、という事なのだと思います



私達が見ている世界は、光のマジック?!なのでは?

氣多大社境内からは見えなかった景色(次元、時空間)に、出会えたような気がします



自身がここに感じるのは、光線(創造物)の源なる 光(光子)の道、セントラル・サン・システム

地球の中心太陽である“シャンバラ”、太陽系の太陽、シリウスの太陽、そして
遙か宇宙の“根源太陽”=グレート・セントラル・サンへと続く“生命の樹”、宇宙の中心軸

縄文(愛と光の聖地レムリア)の面影を残す“入らずの森”は、その入り口だった?!

この場を大切に守ってきたのが、シリウスの“スサノオ”(国常立太神分身)であり

シャンバラの女神“クシナダヒメ”なのかもしれません^^

“キクリヒメ”は、私にとって、NMCを切り開いていく、宇宙大の女性性の“荒魂”であり
天上と黄泉の国の間を、自由に行き来する“スサノオ”は、その対となる、男性性の“荒魂”と感ず
その二神の統合によって、シャンバラ、シリウスへとつながる“入らずの森”の扉が開かれ
宇宙時代がはじまっていく?! そんなビジョンが浮かびます!
拝殿にて、正式参拝をさせていただきました(祭主は女性の方でした)^^
その時いただいた絵馬には、「根源の究極の愛の“皇人”として立ちます!」と記しました
自身にとっての“皇人”とは、“愛の地球(&宇宙)の創造主”です^^
氣多大社境内を上空から撮った写真の中で、最も印象的だったのが、コチラです



拝殿の屋根に見えるのは、燃え上がる赤=愛の炎の中に浮かぶ、“黄金の菊”です

氣多大神(スサノオ)の印として、
空高く、全宇宙に向かって掲げられた紋章であるような気がします

New **GWBEH**

“根源天照皇太神”の分御魂(分身)である自身の、一靈四魂

一靈…根源の究極の愛の皇“皇美” 荒魂…菊理姫尊、素戔鳴尊

和魂…天照皇太神、瓊瓊杵尊 幸魂…木花咲耶姫尊、神武 奇魂…瀬織津姫尊、国常立大神

全てを統合し、そのネットワークである全天界、及び地上の神人(根源の子供達)と共に

新しい、愛の宇宙を創造する、**新 G(WBH) 始動！！**

羽咋は、“UFOの町”として知られています

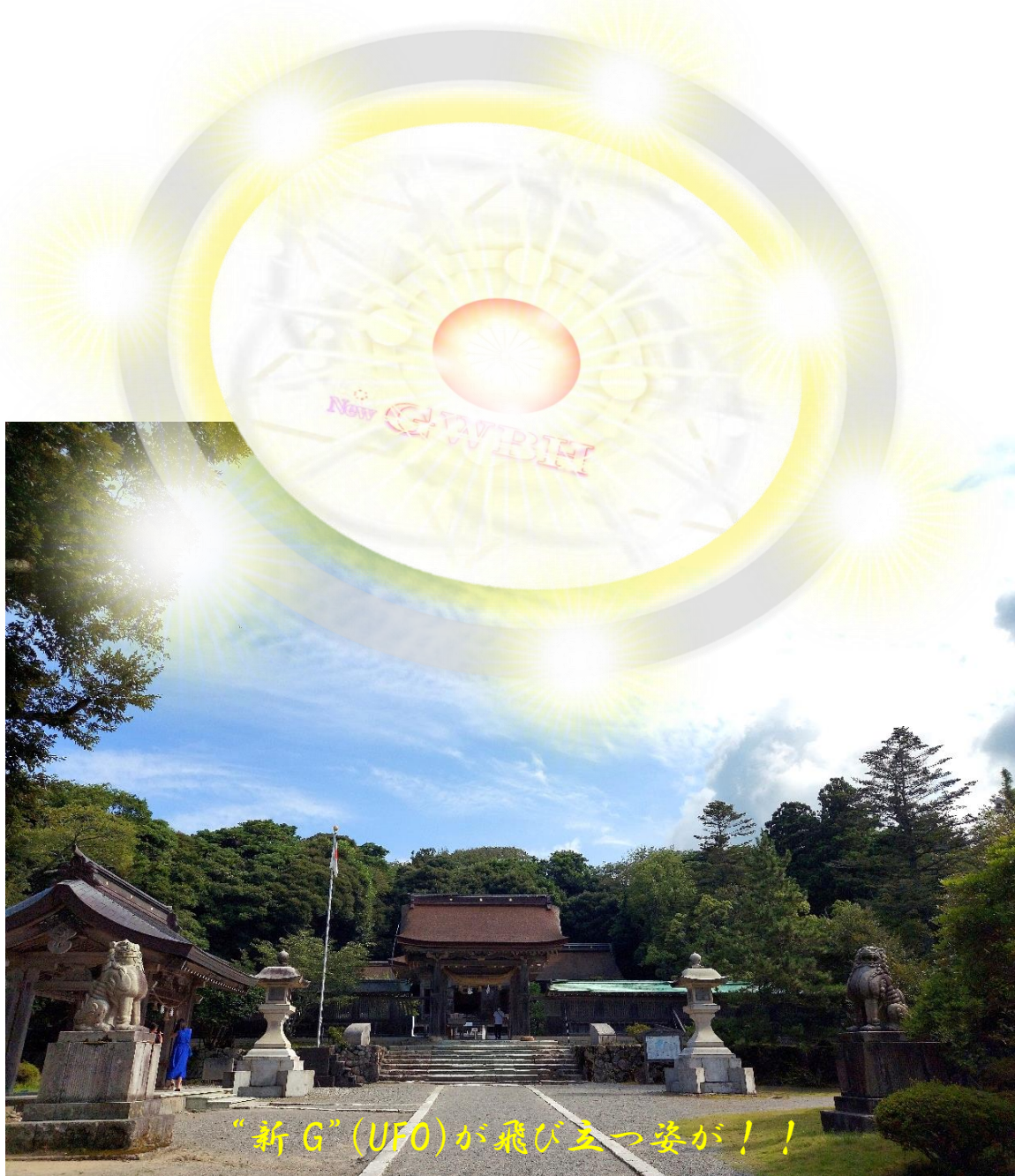
正覚院に保存されている『氣多古縁起』という文献には、

「神通力を用いて、自由自在に空中を浮遊する光の玉」という記述があるとされ

ここが、宇宙船(UFO)の往来する宇宙基地であったことを、物語っている気がします

そういえば、氣多大社の狛犬さん、視線が何だか不思議。。。と感じていた理由が、今わかりました

きっと、見えていたのです！



2021.8 皇美(善美 rumines)